

(♪) ハリストス<sup>し</sup>死より<sup>ふっかつ</sup>復活し、死を以て死を<sup>し</sup>滅<sup>ぼ</sup>し、<sup>はか</sup>墓に<sup>あ</sup>在る<sup>もの</sup>者に<sup>いのち</sup>生命を<sup>たま</sup>賜えり。

日本語

1



ハリストス 死より 復 かつ し 死を 以て 死を 滅 ぼ し  
は かに ある もの に い の ち を た ま え り

日本語

2



ハリス トス 死 よ り ふ っ かつ し  
死 を 以 て 死 を 滅 ぼ し  
は かに ある もの に い の ち を た ま え り

スラブ語

3

スラブ語



ハリストス ヴオスレ セ イヌメル ヴィ スメル チユ スメル チェ ポ ヲ ラ ヲ  
イ ス シ ム ヴ オ ラ ベ ヲ ジ ヴ オ ヲ ダ ロ ヴ ア

# 神の使い (簡略版)

附唱

かみのつかい 恩寵を満ち被る者に 呼びて 日えり、

いさぎよ とう  
潔き童貞女よ、 よろこべよ、 又曰う、 よろこべよ、

なんじ  
爾の子 三日目に墓より 復かつし、

死せし者を 起こせり、 人々よ たのしめよ。

イルモス

あらたなるイエルサリムよ光 光れよ、 主の光栄 爾に

かがや  
輝きたればなり、 シオンよ、 楽しみいわえ、 爾 潔き

なんじ う しゅ ふつつ よろこ  
生神女よ、 爾が生みし主の復活を 喜びたまえ。

# 神の使い

ワラーム修道院のラスペフ

かみのつか - い 恩寵満ちこうむるものに、  
呼びていえり、いさぎよき童貞女  
よろこべよ、またいうよろこべよ、  
なんじの子三日一目にはかよりふかつし、  
死せしものを起こせり。ひとびとや  
よろこべよあらたなるイエルサリム  
ひかりひかれよ、主の光栄は  
なんじにかがやきたればなり シオンよ、いま  
いわいてたのしめよ、なんじいさぎよき  
生神女なんじが生みし主のふかつを  
よろこびたま---え

# パスハのスティヒラ

2013.maria.M

【パスハのスティヒラ】5調

(句) 神は興おき そのあだは 散るべし。  
聖せいなるパスハ、 いま、 我等に現あられたり、  
新たなる パースハ ひみつの パースハ  
至と尊ときパ スハ パスハ ハリストス 救世主、  
きずなき パースハ 大いなる パースハ  
信者のパスハ 天てん堂の門を我等の為に ひらくの パースハ、  
凡すべての 信者を 聖せいにする パスハ なり。  
(句) 煙の散るがごとく 爾 彼等を 散らしたまへ。  
福音きんをつたえる おんなたち

来たりて 見たることを シオンに 告ぐべし、

ハリストスの喜ばしき <sup>ふくいん</sup> 福音を、われらより受けよ、

イエルサ リム よ、ハリストス王が <sup>はなむこ</sup> 新郎のごとく 墓より

<sup>い</sup>出ずるを見て、<sup>よろこ</sup> 喜び いわいたのしめよ。

(句) <sup>か</sup>斯く悪人等は神の <sup>かんばせ</sup> 顔に因って ほろび、

ただ 義人らは 楽しむべし。

<sup>たずさ</sup> 香料を携うる <sup>おんな</sup> 女たち <sup>いのち</sup> あさはやく 生命を賜うものの墓に

来たりて、 石に坐せる 神の使いに <sup>あ</sup> 遇えり、

彼は <sup>か</sup> 斯く之に 告げていえり、

何ぞ 生けるものを死者の <sup>うち</sup> 中に たずぬる、



何ぞ 朽ちざる者を朽つるものとして かなしむ、



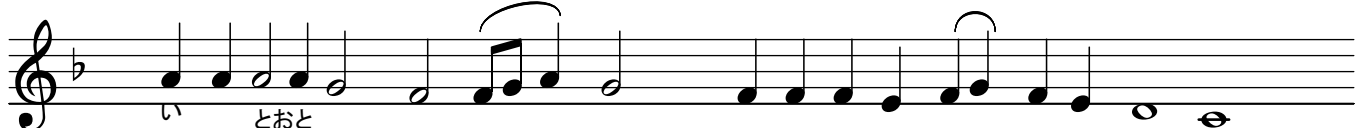
ゆきて 其の門徒に つたえよ。



(句) 主は此の日をつくれり、我等之を以てよろこび たのしまん。



たのしき パスハ パスハは 主の パースハ



いと尊き パスハ は われらに かがやけり。



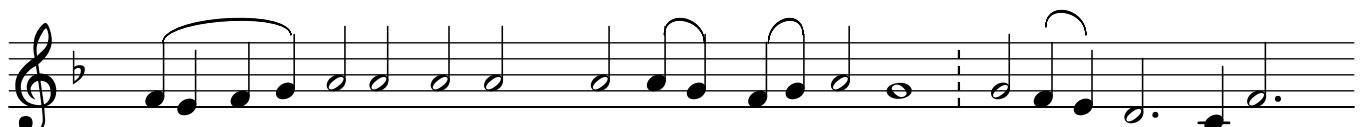
パスハ に 因らうて よろこびて たがい



あいだく-ベ-し 鳴 呼



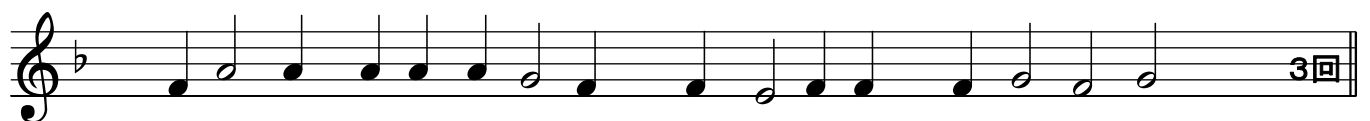
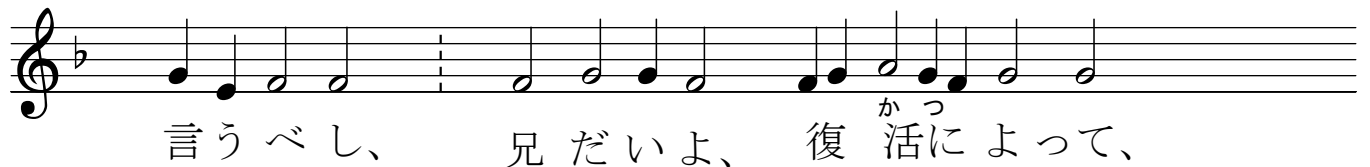
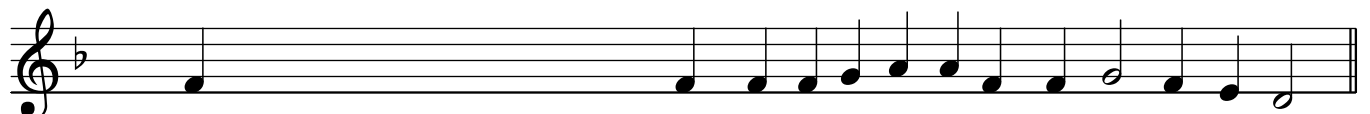
パ - - - - スハ、



う れいより すくう ものや、 けだ-し いま



ハリストスほ みやより するが ごと く、



3回